

今週（3月25日から3月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、25日の特別交付税・財政融資資金や、週後半にかけての年度末諸払いにより当座預金残高が増加したことで、週初めには390兆円程度、週末の29日には390兆円台半ばとなった。無担保コールO/N物は、先週の国債大量償還・利払いを受けて資金余剰感が強く、レート低下基調で推移した。年度末要因により調達に限定的であった29日を除き、週を通して地銀・証券・外銀が中心の調達となった。地銀業態で▲0.086～▲0.015%、証券・外銀業態では▲0.08%台の出会いとなり、加重平均レートは週初の▲0.06%台前半から、週後半にかけては▲0.06%台後半での推移となった。週末の29日は年度末にあたることもあって、調達ニーズが弱く、市場残高は大幅に減少した。また、▲0.086～▲0.025%の出会いが見られたものの、▲0.08%台での出会いが減少したため、加重平均レートは若干上昇した。ターム物は、期末を挟むため、動きは限定的で、月内物で▲0.04～▲0.02%、期越えの1～2W物で▲0.02%台、期明けの1～2W物で▲0.035～▲0.02%近辺の出会いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは29日に2W物・15,000億円がオファーされ、1,784億円（期落ち額1,634億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.285～▲0.085%程度のレンジでの取引となった。末初の取引は▲0.285～▲0.11%程度での出会いとなった。末初を除くと、週が進んでいく中で徐々に投資家勢の資金調達ニーズの高まりが見られたため、レートは上昇基調となっていた。

SC個別銘柄では、5Y130～138、10Y334～353、30Y59～61、40Y11などにビッドの出入りが目立った。

●短国市場

今週の短国市場は、長期債が強含みで推移する一方で、短国の入札は無く、全般的に閑散としたマーケットとなった。

26日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差±0.000%と、応札額が1兆4,198億円程度と多かったものの、前週の後半から短国市場が強含んでいたこともあってか、落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、年度の期末・期初にあたり、5兆2,000億円程度の償還に対して、2兆5,000億円程度の発行にとどまるなど、昨年にも増して大幅な償還超となった。年度末日は例年通り一般事業法人による有利子負債の削減が見られ、償還と発行の差額が約3兆7,000億円発生した。月末発行としては発行量が限定的であり、市場残高が減少したことや26日に実施されたCP等買入オペの影響もあって、ディーラーの玉確保ニーズが極めて強かった。そのため、今後発行残高の積み上がりが見込まれる銘柄に対しても積極的な買いが入り、ショートターム物を中心に▲0.01%を下回る決着が多く見られた。一方、新年度初日の発行は電機業態が1,800億円程の超大型発行を実施したほか、鉄鋼・機械・石油業態等の幅広い業態から大口の発行が見られ、発行額は1兆1,000億円程度まで膨らんだ。来期も多くの事業法人が期中物を中心にCPを積極的に活用していくと見込まれる。

期末日最後のCP等買入オペは、26日に事前予定通りの3,500億円で実施された。今回のオペは、年度最後であるため玉の量は限られたものの、ディーラーの売却ニーズの高い銘柄がやや多めに買入対象となったことで、平均落札レート▲0.005%、按分落札レート▲0.009%と、いずれも前回（平均▲0.009%、按分▲0.011%）比で上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/25 (月)	20,977.11	△ 0.090	109.80	△ 0.062	△ 0.150	3,905,600
3/26 (火)	21,428.39	△ 0.070	110.09	△ 0.064	△ 0.167	3,920,200
3/27 (水)	21,378.73	△ 0.070	110.55	△ 0.066	△ 0.119	3,914,900
3/28 (木)	21,033.76	△ 0.100	110.20	△ 0.067	△ 0.209	3,939,100
3/29 (金)	21,205.81	△ 0.095	110.92	△ 0.060	△ 0.097	3,940,300

来週（4月1日から4月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/1 (月)	新元号発表 3月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				1月の米企業在庫 2月の米小売売上高 2月の米建設支出 3月のISM 製造業景況指数 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値
4/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 3月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 4/3発行			2月の米耐久財新規受注
4/3 (水)	4月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 43,400億円 4/4発行			3月のISM 非製造業景況指数
4/4 (木)		30Y 7,000億円 4/5発行	交付税借入 10,500億円 4/12借入		
4/5 (金)	2月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 2月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 3月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 2月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,400億円 4/8発行			2月の米消費者信用残高 3月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/1 (月)	700	▲ 28,900	▲ 28,200	国債買入 全店共通 国債補完	▲ 1,600 1,900	7,600 1,800	9,700	▲ 18,500	2Y発行▲20000
4/2 (火)	1,000	▲ 12,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	
4/3 (水)	1,000	▲ 12,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	普通交付税 地方特例交付税 税・保険料揚げ 10Y発行▲21000
4/4 (木)	0	4,000	4,000				0	4,000	TB3M発行▲43400償還41900
4/5 (金)	0	1,000	1,000	CP買入		2,000	2,000	3,000	恩給 30Y発行▲7000
週間合計	2,700	▲ 47,900	▲ 45,200	—	300	11,400	11,700	▲ 33,500	

4/1は日銀予想、4/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、3日に税揚げや交付税の払いが予定されており、様子見の展開も予想される。レポ市場は、積み期後半に入るため、投資家の資金調達ニーズが注目される。短国市場は、3日と5日に3M物の入札がそれぞれ実施予定となっている。4月前半は入札ラッシュとなるため、期明けの運用の動向など、需給面でレートへの影響が注目される。CP市場は、2日にCP等買入オペが前回比2,000億円の減額となる1,500億円程度で実施される予定となっている。発行市場のレートが低位で推移していることに加えて前回からの期間も短いものの、1,500億円程度と少額であるため、大きなレート低下は期待しづらい。

主要なイベントとしては、国内では1日の短観、海外では1日に3月のユーロ圏CPI速報値、5日に3月の米雇用統計の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入